

釣鐘のうなるばかりに野分かな 夏目漱石

関 宣也

山々の木々が少しずつ色づき始め、紅葉が待ち遠しい季節となりました。

しかし、先月に続き、大変危険な台風がまた関東地方を直撃し、大きな被害をもたらしました。被災された方々にはお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興がなされますようお祈り申し上げます。台風のような気象災害は、かなり前から報道等で情報を得ることができ、対策もとれると思いますが、必ず起こるといわれている巨大地震は突然襲ってきます。この機会にご家族で防災について話をさせていただき、どのような対策をとることが必要かを考えてほしいと思います。

さて、9月の学校だよりでも少し書かせていただきましたが、やはりこの時期は文化祭（特に合唱コンクール）が中心となりますね。

10月29日に行われる『合唱コンクール』に向け、どのクラスも練習に熱が入ってきました。生徒たちの歌声が学校中に響き、秋に彩りを添えています。

スローガン

『みんなが“トリコ”になるような 令和最初の笑顔あふれる文化祭にしよう！！』

練習の段階では、クラスごとにドラマがあり、時にはもめごともあったのではないのでしょうか……。それでも本番が近づくにつれてクラスが一つになり、仲間の新たな一面を感じ取ることもできてきているようです。

コンクールですから、そこには順位がつきます。だから、勝てば苦勞が報われ嬉しいし、負ければ心底悔しい思いもします。しかし、みなとみらいホールに立った時点で、すでに発表の出来だけでは決して評価できない大切なものを、皆さん一人一人は手にしていると思っています。仲間たちとどれだけ良い時間を共に過ごせたか、どれだけ充実できたかが一番大切だと感じます。

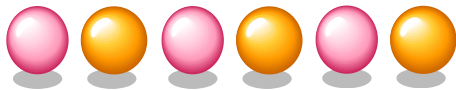
今までの思いを歌にのせて伝えることができれば、心で合唱を聴くことができ、会場が大きな感動に包まれることとなります。

保護者の皆様には、是非みなとみらいホールにお越しいただき、生徒たちの自慢の歌声をお聴きください。

最後に、先日、電車に乗っていると座っている自分の前にご年配の女性が立ちました。「どうぞお座りください」と席を譲り、その方は笑顔で「ありがとう」と言って座りました。そして、二つ目の駅で降りる際にも、笑顔で「ありがとう」と言って下車しました。

何気ない「ありがとう」の一言ですが、自分はなぜか嬉しくなってしまう、心の中で思わず『どう致しまして。いつまでもお元気で！こちらこそ、ありがとう』とつぶやいていました。『ありがとう』など、感謝の言葉は、言った方も言われた方も、幸せにしてくれる、魔法のことばなんですね。自分は常に「笑顔でありがとう」という気持ちを大切に生活しなくてはいけないと改めて感じました。





社会を明るくする運動受賞作品

瀬谷区長賞

「二つのバリアフリー」

2年 長縄 柚葉

私の祖父は若い頃、仕事中の事故で右ひざに大きなけがをして、右ひざが曲げられなくなるという障がいを負いました。それでも昔は歩くことができていましたが、最近はどうも片方の足にも痛みがでてきてしまい、外出するときには車椅子を使わなければならなくなりました。

障がい者の祖父は生活する上で苦勞することがたくさんあります。例えば一人で電車に乗る時には駅員さんを選んで乗車の手伝いをしてもらわなければなりません。だから今は電車で外出はしなくなってしまいました。また、美術館に行った時には混雑の中だと、車椅子は場所をとって邪魔になってしまうので他の人に迷惑をかけないように、絵を遠くからしか見ることができません。旅行に行った時には、車椅子では行けない観光地も多いため、一緒に行動せず一人で待っていることもあります。

私はそのような祖父の姿を見るたびに悲しい気持ちになります。だから健常者と障がいのある人が平等に不自由なく生活できる社会になると良いと思います。

祖父を見ていると日本はまだまだバリアフリー化が進んでいないと感じます。そこで、他の国ではどのように取り組んでいるかと調べてみました。ニュージーランドでは電車のドアとホームのすきまには、ドアが開くたびに板でつながり車椅子やベビーカーで乗降しやすくなっています。また、椅子をあげて使えるスペースも広々としています。建物は全てバリアフリーにしなければならないと法律で定められているそうです。これによってニュージーランドでは車椅子の人でも健常者と同じように不自由なく生活することができ、街でも車椅子の人を多くみかけることができます。



私は日本もニュージーランドのように公共交通機関や様々な施設のバリアフリー化が進んだら祖父も充実した生活が送れると思います。

しかし、施設や乗り物のバリアフリー化だけではなく、人の心の気持ちも変わらなければなりません。以前、祖父が「車椅子で坂が登れなくて困っている時に気づいて車椅子を押してくれる人は、介護などで車椅子の人と接したことがある人が多い」と言っていました。私も身近に車椅子に乗っている祖父がいるので、もし同じように困っている人がいたら助けてあげたいと思います。

だけど、もし車椅子の人が身近にいなかったら、なかなか手助けをする勇気がもてなくて見過ごしてしまうと思いました。より多くの方が障がいのある人を手助けできるような社会にするためには、福祉講演会や体験などを増やして障がいのある人に対する知識や理解を深めていくことが大切だと思います。

環境と人の心の両方が変われば、障がいのある人がより不自由なく生活できる社会になると思います。そしてこのような知識や理解を深めていくことは、これからの高齢化社会には役立つと思います。この考えを忘れず、誰もが安心して生活できる社会を目指していきたいです。

「差別と個性」

二年 小野 愛莉

私の家族には、障害をもった七才年下の妹がいます。当時の私はその妹が生まれるまで障害者の差別をしていました。皆さんにも同じ経験があるかもしれません。

小学生の時、クラスにたまに来る障がいをもった女子児童がいました。その子は私たちの行動、活動にいつも追いつけず、困っているようでした。クラスのほとんどの人がそのにぶさに怒りがおさまらず、差別するようになりました。何で先生が付きそっているのか。何で一緒に授業ができないのか。この時の私は女子児童に不思議がいっぱいで、その子の気持ちなんて少しも考えていませんでした。

そんなことが二ヶ月も続いていた時、私の家族に妹が誕生しました。すぐには明かされませんでした。妹は障がいをわずらっていました。障がいとはどういうことなのか、その時の私にはよく分かりませんでした。

障害という言葉が辞書で引いてみると、身体の一部に正常に機能しないところがあること、と書いてあります。

妹はどんな状況なのか、不安と心配でいっぱいでした。それから障害者について考えるようになりました。クラスにいる女子児童のことも・・・。

妹が生まれた後の私は、女子児童にしてしまった「差別」についてとても心残りでした。たくさんの不安を与えてしまったこと、心に傷をつけてしまったこと、どうしてもその時の自分を許せませんでした。それと同時に障害の差別がおきていることを知りました。

クラスのみんから女子児童への差別が続いている時、私はあることに気づきました。一つ目は「個性」です。どの活動、行動にもにぶいというイメージしかなかった女子児童が、あることをしたのです。ぞうきんがけです。ロッカーの整理です。効率よくそうじをしていた女子児童に驚きがいっぱいでした。それに差別をする時、自分と違うところを指摘していました。でも、人とは違うということは一人一人の「個性」だと思いました。

それから家では妹の個性をよく探しました。まだ小さくてその時は見つけることができませんでしたが、最近絵が上手なことに気づきました。よく絵を書いて見せてくれます。障害があってもなくても個性を探すことは良いことだと思います。

私は、障害のあるなしで人を差別することから、人の個性を見つけるということに考えが変わりました。みなさんも人の欠点より個性や良さを探し、見つけていけたらいいと思います。

家族に障害の妹がいても、他の子と同じように接し、良い所、個性をたくさん見つけていきたいと思いました。この考えを大切に全員が互いを大事に思いあう社会を目指していきたいです。



合同体育祭

10月2日水曜日に、三ツ沢競技場にて横浜市立中学校・義務教育学校個別支援学級合同体育祭が行われました。年に1度の横浜市すべての個別支援学級が集まる大きな行事です。今年、この大会の開会の言葉を3年の原大気さんが務めました。個別支援学級では、日頃の体育活動で自身の体力の強化、向上を目指す取り組みをしています。晴天に恵まれ、生徒たちは取り組みの成果を一生懸命発揮しました。

3年女子ボール投げでは、西澤百柚さんが準優勝！！3年男子400m走では、原大気さんが4位入賞。2年男子50m走では、園田賢太さんが準優勝！！1年男子走り幅跳びでは、丹野敦司さんが優勝！！1年男子400mでは、武田勝さんが5位入賞。昨年に引き続き、男女混合リレーでは、(大岡未来大さん、原大気さん、西澤百柚さん、園田賢太さん)のメンバーで、準優勝に輝きました！！入賞できた人、できなかった人といいますが、それぞれの全力を出しきって、挑戦する生徒たちの姿はとっても素敵でした。また、競技に出場しているクラスの仲間に大きな声で声援を送る姿も微笑ましく、成長のひとつと嬉しく感じる場面でもありました。日頃より暖かく見守り、支えていただいた皆様に感謝します。

(個別支援担任 今島麻由)

●●●●●● 読書週間に向けて

「読まない」なんてもったいない！

急に、肌寒くさえ感じられるようになりました。

今、図書館前には、ラグビーW杯、消費税10%、ノーベル化学賞受賞、台風19号、の新聞記事とそれぞれに関連する本を展示しています。ラグビーW杯のコーナーは図書館内にもありますが、養護の芳賀有里香先生が、ラグビーの紹介や本のオススメコメントを寄せてくださいました。芳賀先生の熱い思いのおかげで、日本選手の歴史に残る戦いぶりを大いに楽しめています。



9月&10月は、図書館での授業も多くありました。2年生・理科『人体』『動物』、1年生・数学『平面図形』。また館内には、3年生・音楽『鑑賞曲:ブルタバ』や、1年生・数学『合同な形を組み合わせた模様～平面図形』のコーナーがあり、関連資料を展示しています。

調べ学習の感想コメントに、とてもうれしいことが書かれていました。ここに紹介します。

「いつもはインターネットで調べるけれど、本でもいろいろ調べられることがわかった。」

「本で調べるのはわかりやすかった。」

図書館には、百科事典・図鑑・雑誌・単行本・コミックなどいろいろな種類の本があります。信頼できる解説文に写真や図も載っていて、わかりやすくまとめられています。同じテーマで比べ読みをするのもおもしろいですよ。

11/5(火)～8(金)は、原中・読書週間です。今年も図書委員が“クラス対抗読書マラソン”を実施します。期間中は毎日、学年ごとのポスターに結果が記録されていきます。図書館でも、10/18(金)～11/8(金)に3冊貸し出しをします。最終返却日は11/18(月)。それまで、何回でも利用できます。(10/28～10/31の文化祭展示期間は貸出・返却はできません。)



新着図書コーナーや、興味ある分野の本の棚へ行ってみてください。あなたを呼んでいる本がきっとあるはず。また、校内に“お楽しみポスター”も掲示します！ 乞う、ご期待！

さあ、読書の秋。いろいろな分野の本に触れて、自分を広げませんか？

そう、「読まない」なんて、もったいない!!

(学校司書 玉林 由実)

教育実習生の紹介 ●●●●●●

みなさん、こんにちは。10月7日から26日までの3週間、教育実習をさせていただき、法政大学の丸茂愛と申します。教科は社会科を担当させていただきます。

私は、6年前に原中学校を卒業しました。思い出のある母校で実習ができることをとても嬉しく思っています。学ぶことの楽しさや社会科の面白さを授業を通して伝えていけるよう努めていきます。3週間という短い期間ですが、先生方や生徒のみなさんから多くの学びを得たいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

お詫び

日頃より原中学校の教育活動にご理解をいただきありがとうございます。

この「学校だより」は、毎月20日に発行しておりますが、今月号は発行が遅れてしまいご迷惑をおかけいたしました。お詫び申し上げます。
学校だより担当 峰洋子